

データカタログ（試行版）の 作成について

鳥取大学 学長室IRセクション

大学評価室

大野 賢一

ohno@tottori-u.ac.jp



本日の内容



- ・学長室IRセクションの体制及び取組
- ・ファクトブック（データ集）の作成
- ・データカタログ（データ一覧表）の作成
- ・今後の対応

学長室IRセクションの体制



■IRセクションのスタッフ

- ・ 学長特別補佐（IR担当）：大学評価室 専任教員（併任）
- ・ スタッフ（3名）：

総務企画部企画課	副課長（併任）
総務企画部企画課	課員（併任）
総務企画部企画課	非常勤職員

■総務企画部企画課

大学改革に係る企画立案、中期目標・中期計画の策定、学部・大学院の改組、大学の自己点検・評価等の業務

学長室IRセクションの取組



業務内容（案）

- 学内データの収集、分析及び提供に関すること。
- ファクトブック（データ集）の作成及び提供に関する
こと。
- データカタログの作成に関すること。
- 大学ポートレートの作成及び提供に関すること。

ファクトブック（データ集）の作成



■ファクトブックとは

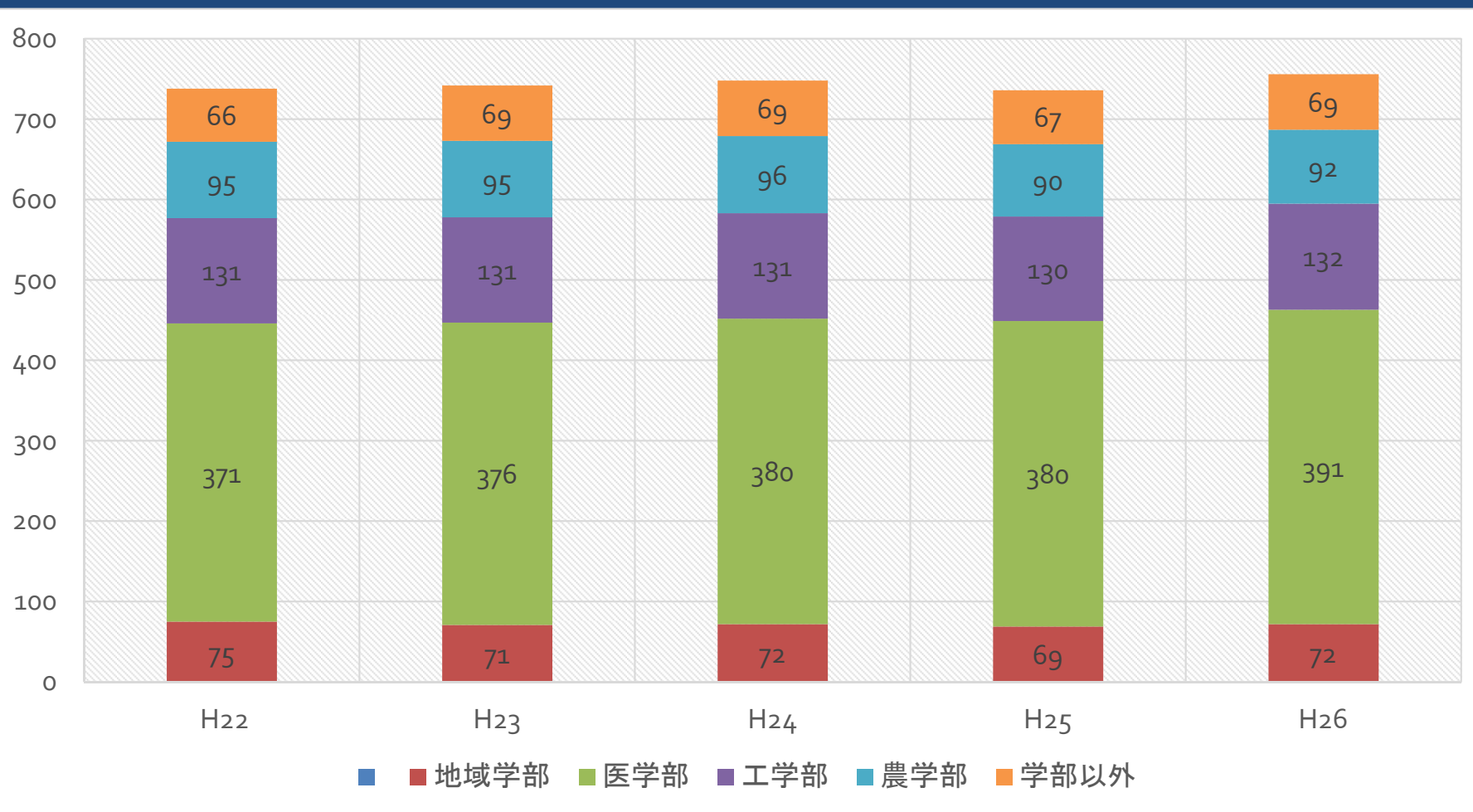
「ファクトブックは、その大学の運営上、重要なデータ（経年、ときには他大学との比較）を見やすい表やグラフの形に整理し、大学執行部、学部執行部や各現場などへ意思決定や判断の支援のために供されるものである。」（鳶田、2015）

大学概要データ（過去5年間）を可視化

ファクトブック（データ集）の作成ー教員数の推移



(人)

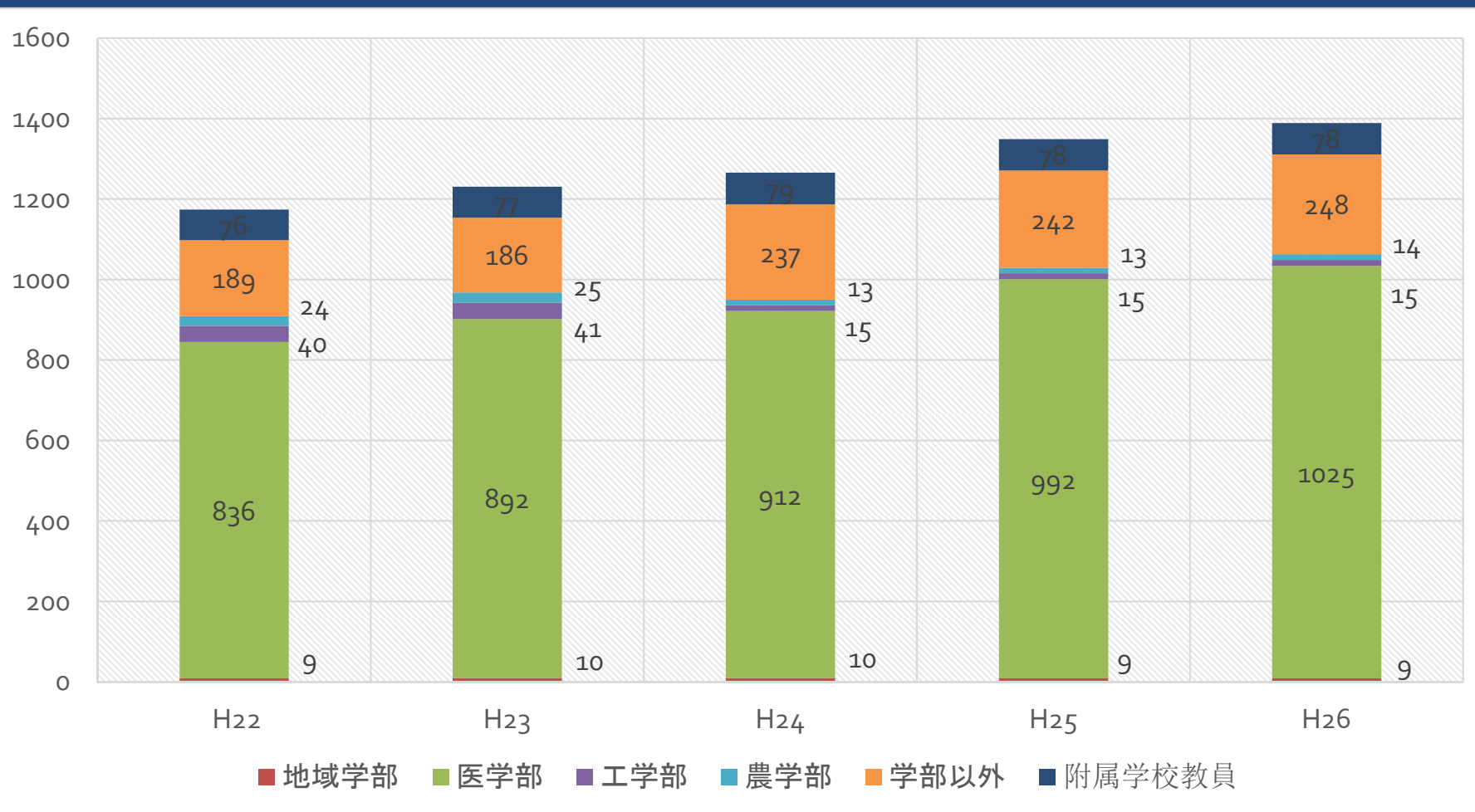


(出典：鳥取大学 大学概要2010～2014から作成)

ファクトブック（データ集）の作成ー職員数の推移



(人)

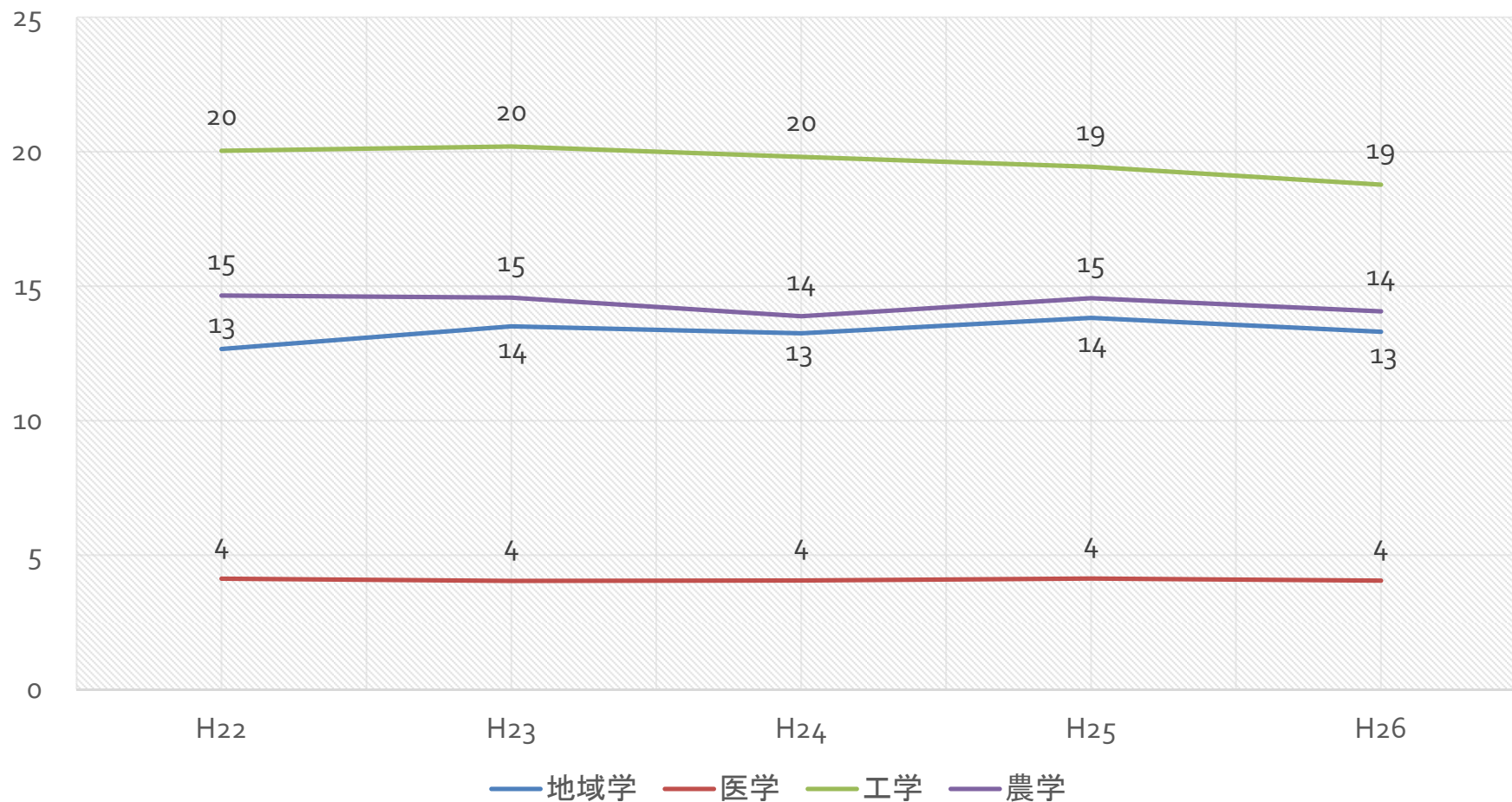


(出典：鳥取大学 大学概要2010～2014から作成)

ファクトブック（データ集）の 作成—教員一人あたりの学生数



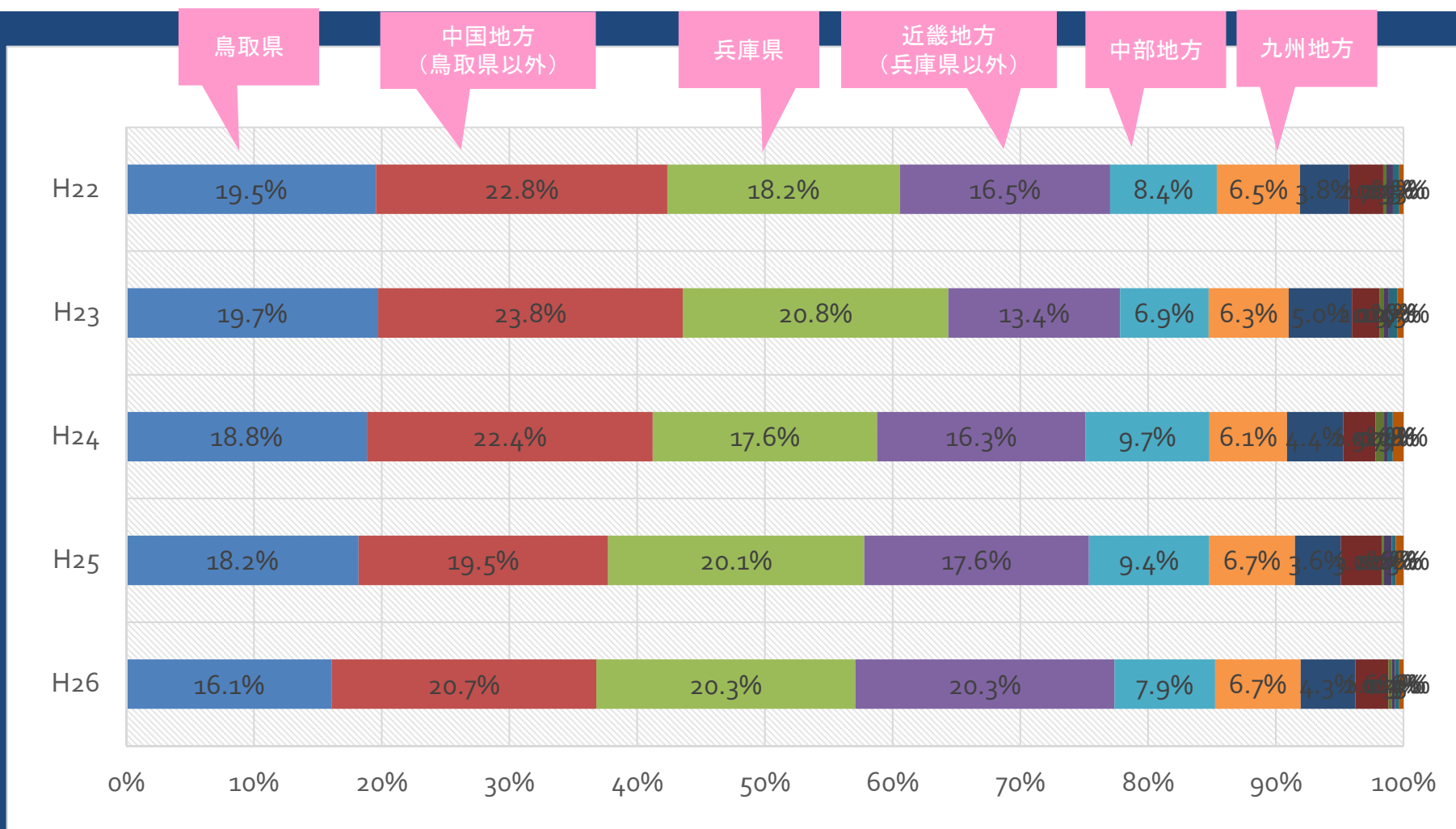
(人)



(出典：鳥取大学 大学概要2010～2014から作成)

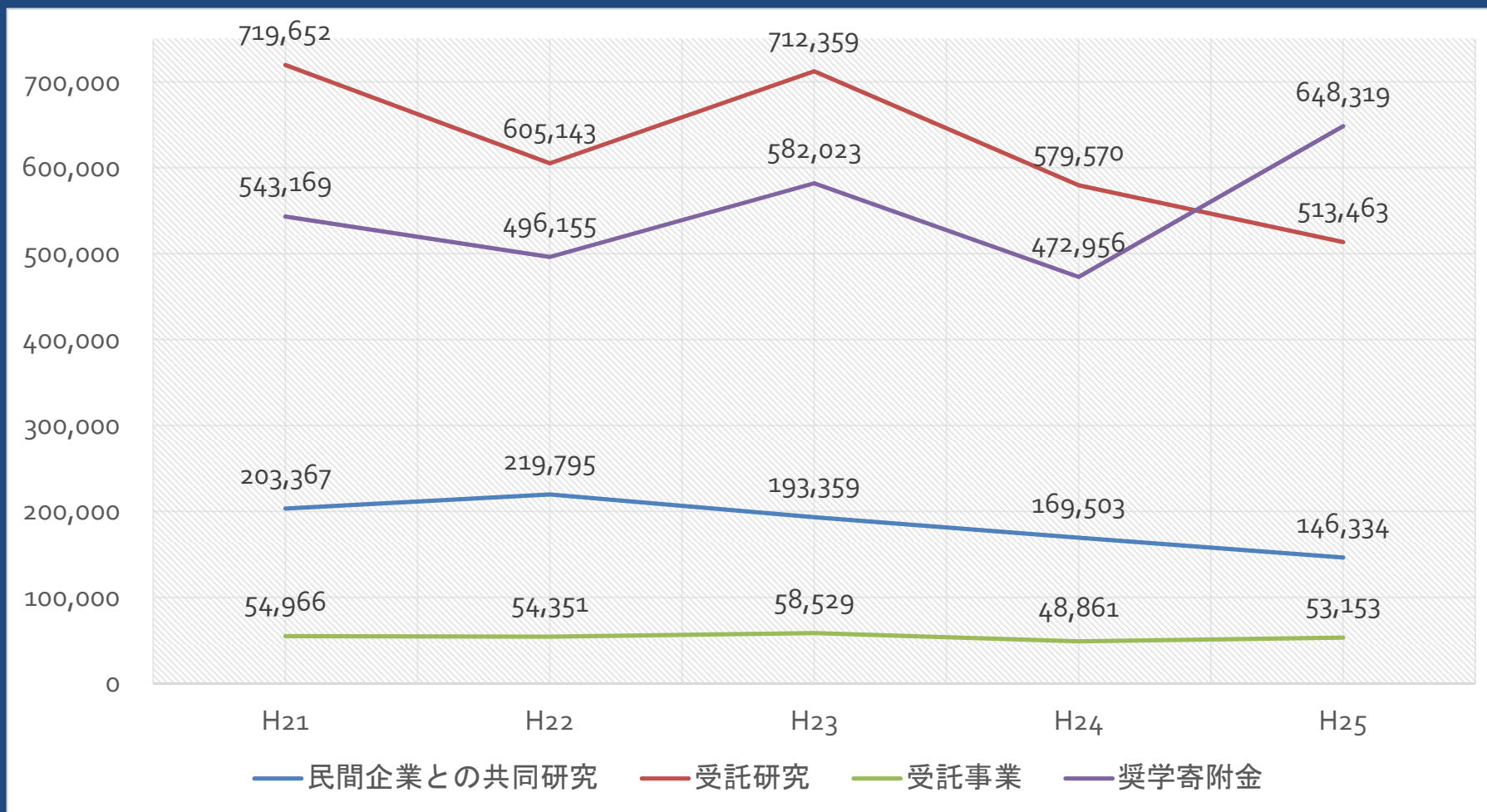
ファクトブック（データ集）の作成

— 入学者出身地域の推移（学部）



(出典：鳥取大学 大学概要2010～2014から作成)

ファクトブック（データ集）の作成ー外部資金受入金額の推移



（出典：鳥取大学 大学概要2010～2014から作成）

ファクトブック（データ集）の作成



■大学概要の問題点

- ・データの出典や定義に関する説明がない
- ・データが毎年ばらつくことがある

■完成形のイメージ

- ・神戸大学データ資料集「データと資料が語る神戸大学の今の姿」

データカタログ（データ一覧表）の作成



■データカタログとは

- ・「いつどの部署で、どのようなフォーマットでデータを作成しているのかをまとめたもの」（鳶田ほか、2015）

地味だけど、これが無いと始まらない

データカタログ（データ一覧表）の作成



① データカタログに収録対象となる調査票等（活用資料）を選別する

■活用資料

- ・ 大学概要
- ・ 学校基本調査
- ・ 大学情報データベース
- ・ 大学ポートレート
- ・ その他（評価関係資料、学生生活実態調査、大学ランキング等）

データカタログ（データ一覧表）の作成



② 活用資料ごとにデータ項目を抽出し、一覧表及び各データ定義書を作成する

■一覧表

項目番号、項目名、担当部署名、活用資料名、該当箇所、基準日、データ定義書番号、データ定義書名（シート名）、備考

■データ定義書

項目名、項目定義、データ書式、基準日、定義出处、確認場所、照会

データカタログ（データ一覧表）の作成



- ③ 一覧表から同一内容（定義）を示す**重複項目を洗い出し**、整合性を取る
- ④ 担当部署にデータカタログ（案）の確認・修正を依頼し、共有する
- ⑤ 鳥取大学Webサイトの「教育情報の公表」、鳥取大学概要等の公表されている項目との対応関係を確認
- ⑥ データカタログ（案）を完成させる

データカタログ（データ一覧表）の作成



■対象データ確認時の問題点

- ・大学概要、Webサイト等の数値と学校基本調査、大学情報データベース等の数値が一致しない場合がある
- ・データ定義は最新のものを記載しているが、照合媒体によってはデータ定義が古い場合がある

データカタログ（データ一覧表）の作成—番外編



■ 「THE世界大学ランキング」のデータ収集時の問題点（データカタログ未収録）

- ・ 調査の目的やデータの必要性について問われることがあった
- ・ 調査項目に、本学で収集しにくいものがあった
- ・ どの部署にデータがあるのかが不明なものがあった
- ・ データ定義を示して依頼したが、異なるデータが提出されることがあった
- ・ 大学として公開されているデータは集計結果が多かったため、転用できなかった

※これらに対する回答は、「データ収集作業のガイドライン」にあります。

データカタログ（データ一覧表）の作成→活用



- ① データカタログに基づき、関連するデータの収集・蓄積を行う
- ② データカタログの中から主要な項目を抽出し、**グラフ等による可視化**を行う
- ③ 作成したグラフ等を用いて、**ファクトブックを作成**し、執行部や部局に確認してもらう

データカタログ（データ一覧表）の作成→活用



■データカタログ活用時の問題点

- ・ どうやってデータカタログを共有するか？
- ・ どうやってデータ定義を徹底するか？

■完成形のイメージ

- ・ データベースの設計書（テーブル定義書）

今後の対応



- ・参加者の皆様から、アドバイス、意見等を伺いたい
- ・今後の参考にして、データカタログの精度をあげたい
- ・他大学でも共有できるよう、情報誌『大学評価とIR』に投稿したい

参考文献



- 嵩田敏行（2015）「ファクトブック作成に向けた大学概要の活用について」, 『大学評価とIR』, 1, pp.31-38.
- 嵩田敏行・大野賢一・末次剛健志・藤原宏司（2015）「IRオフィスを運用する際の留意点に関する考察」, 『大学評価とIR』, 2, pp.27-36.
- 大学評価コンソーシアム（2013）「データ収集作業のガイドラインー効率的・効果的な評価作業のためのデータ収集の課題と対応ー（平成25年2月12日版）」, 6p.
http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/documents/guideline/h25-0212_Hyouka_guideline_data_management.pdf（最終閲覧日：2015年10月14日）
- 藤原宏司・大野賢一（2015）「全学統合型データベースの必要性を考える」, 『大学評価とIR』, 1, pp.39-47.